

第13回 周南市美術展2015 目録

会場 周南市美術博物館

前期 書・写真 平成27年10月14日(水)～10月18日(日)

後期 平面・立体 平成27年10月21日(水)～10月25日(日)

9時30分～17時

市美展大賞・準大賞作品は、前期・後期通じて展示します



市美展大賞 立体 「分裂」 楊井 朋子

主催 周南市 周南市教育委員会

主管 周南市美術展運営委員会

後援 周南文化協会

協力 周南書道連盟 周南陶芸連盟 周南美術連盟 周南手工芸連盟 周南水墨画連盟

第13回周南市美術展2015 審査員紹介

平面の部

まぐや よしお
菊屋 吉生 (美術史学者) 1954年生

立命館大学文学部史学科卒業 (1973年)

山口県教育委員会文化課美術館準備室学芸員 (1978年)、山口県立美術館学芸員 (1979年)、第1回倫雅美術奨励賞受賞 (1989年)、山口県メダル栄光文化賞受賞 (1989年)、山口県立美術館普及課長 (1996年)、山口大学教育学部助教授 (1997年)、山口大学教育学部教授 (2006年)、山口大学国際総合科学部教授 (2015年)

主な著書に、『昭和の美術第1巻～第6巻』(毎日新聞社 1990～1991年 共著)、『日本美術全集 23巻 近代の美術Ⅲ』(講談社 1992年 共著)、『日本美術館』(小学館 1997年 共著)、『別冊太陽 東山魁夷—日本人が最も愛した画家』(平凡社 2008年 監修・共著) 他

専門は、日本近代美術史

おだ よしろう
小田 善郎 (画家) 1951年生

福岡教育大学卒業

山口県美術展最優秀賞受賞 (1987年)、山口県芸術文化振興奨励賞受賞 (1988年)、第31回～32回安井賞展入選 (1988年、1989年)、第22回西日本美術展大賞受賞 (1989年)、第14回青木繁記念大賞展わだつみ賞受賞 (2005年)、第68回山口県美術展覧会大賞 (2014年)

英展出品 (田川市美術館、1995年、2015年)、FACE展2014損保ジャパン美術賞展入選 (2015年)

「小田善郎作品展」(周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館、2008年)

「東日本大震災復興支援カレンダー」作品参加 (2011年～2012年)

ART KAOHSIUNG 2014出品 (2014年 台湾)、ART Monaco 2015出品 (2015年 モナコ)

立体の部

なかむら たかふみ
中村 隆文 (東亜大学芸術学部准教授) 1953年生

武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業

第20回朝日陶芸展新人奨励賞受賞 (1982年)、第13回バレンシア国際陶磁器・ガラスデザイン展グランプリ受賞 (1983年)

第3回朝日現代クラフト展グランプリ受賞第5・25回招待出品 (1985年)

たかぎ しげのり
高木 茂登 (比治山大学短期大学部美術科教授) 1950年生

愛知県立芸術大学美術学部彫刻専攻卒業 (1973年)

東京藝術大学大学院美術研究科保存修復技術専攻修了 (1976年)

広島県立美術館勤務 (1981年～) 比治山大学短期大学部美術科勤務 (1988年～)

新制作協会展、公募広島の美術などの公募展のほか、グループ展として、新制作広島グループ展、Sculptureヒロシマ、広島芸術学会展などに出品

企画展として、日米立体造形作家展 (1999年)、ふれる・感じる・かたち展 (2000年)、白市DNA展 (2003年)、宇山DNA展 (2011年) などに出品

八千代の丘美術館第9期入館作家 (2010年)

著書に『ひろしま・水と緑と彫刻』、『南薫造の日記・関連書簡の研究』、論文『宮本瓦全の研究』、『遠くの声—芥川永の彫刻』など

書の部

おか ほうしゅう
岡 蓬舟（書家） 1940年生

山口大学教育学部卒業

西日本書道展山口県知事賞（1967年）、日展入選（1974年）（以後7回）、山口県美展県教育長賞（1976年）、同展優秀賞（1978年）、毎日書道展毎日賞（1980年）、日本書芸院展書芸院大賞（1986年）、山口県芸術文化振興奨励賞（1986年）、第21回国民文化祭美術展書部門審査員（2006年）、山口県文化功労賞（2007年）、山口県選奨（2012年）

現在、読売書法展幹事、日本書芸院展1科審査員、墨滴会常任理事、山口県書道連盟常任顧問

むらかみ がざん
村上 俄山（書家） 1932年生

第59回中国文化賞受賞（2002年）

地域文化功労者文部科学大臣表彰（2006年）

朝日新聞現代書道二十人展出品（2012年）

現在、日展参与、日本書芸院顧問、読売書法会参事（中国展顧問）、書道笹波会会長、全国書美術振興会理事、広島県書美術振興会理事長、広島日展会副会長、樸俄会主宰

写真の部

くりばやし かずひこ
栗林 和彦（写真家） 1946年生

山口県美術展覧会「県教育長賞受賞」（1974年）、山口県美術展覧会「優秀賞受賞」（1988年）、山口県教育委員会教育功労賞受賞（芸術部門）（1992年）、山口県芸術文化振興奨励賞受賞（1993年）、山口県選奨芸術部門受賞（2006年）

個展「時点」（ギャラリーなかの、1985年）、中国山東省招待「国際平和全国青年撮影大獎作品展覧会」（1986年）、「サビエルと大内文化写真展」（C.S赤れんが、1999年）

たけしげ みつのり
竹重 満憲（写真家） 1947年生

上智大学経済学部卒業（1971年）

日本写真家協会（J P S）会員（1992年入会）

出版取材 NHK大河ドラマ「毛利元就」図録（NHK、1997年）、井沢元彦「逆説の日本史」（小学館、2008年）、「岩国・柳井今昔写真帖」（郷土出版社、2009年）、「周南・下松・光今昔写真帖」（郷土出版社、2009年）、ディアゴスティーニ「週刊 日本の城」（2013年、2014年）、「周南・下松・光の昭和」（樹林舎、2014年）、「サライ」（小学館）（2013年より取材）

平面 出品数127(市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞23・入選83)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	メモからの脱出	三浦 朋子	市美展準大賞
2	老木	藤井 美彦	市美展賞
3	森の個展	河北 律子	市美展賞
4	四熊の棚田	橋本 美保子	市美展賞
5	戦後70年 ～僕らの未来は…～	久村 ゆかり	市美展賞
6	S P A C E V	吉田 京子	市美展賞
7	森の宝石	大木 加代子	奨励賞
8	あそぼ I	津田 鈴子	奨励賞
9	田植の頃の山里風景	山野井 三郎	奨励賞
10	春を待つ	原田 勝造	奨励賞
11	光彩る薔薇の園	秋貞 啓子	奨励賞
12	とうりゃんせ小路	秋本 町子	奨励賞
13	こどもの情景 II -Jump-	松浦 清子	奨励賞
14	Rest of My Life～このままずっと～	吉田 裕子	奨励賞
15	しずかな朝	幸池 慶子	奨励賞
16	架橋	永村 善輝	奨励賞
17	天空の遠山郷	松原 セツ子	奨励賞
18	秋の花桶	森原 宏恵	奨励賞
19	ヒズミ	玉野 淑子	奨励賞
20	花園プロムナード	女屋 恭子	奨励賞
21	光の方へ	玉井 みはる	奨励賞
22	アオウサギ	中股 恵子	奨励賞
23	刻-古都バクタプルー (ネパール)	升 節子	奨励賞
24	流れ	佐藤 ミナエ	奨励賞
25	雨の日に	木村 直子	奨励賞
26	ねこ	藤村 義孝	奨励賞
27	2	村上 知花	奨励賞
28	一触即発	林 幸男	奨励賞
29	エンドレス	林 邦子	奨励賞
30	白い花のお庭	田邑 昌子	入選
31	現代異常現象表現図	渡邊 俊行	入選
32	映る	石村 健志	入選
33	燦shine	岩田 キミ	入選
34	温泉天国～癒しの湯～	岩田 キミ	入選
35	Mt. Fuji・椿 (レッドの文化)	国光 俊夫	入選
36	あそぼ II	津田 鈴子	入選
37	真っ盛り	藤井 美彦	入選
38	景観角島大橋	山野井 三郎	入選
39	エッジグリップ	恵村 正昭	入選
40	バラのアーチ	安澤 幸枝	入選
41	夢	安澤 幸枝	入選
42	鯉	原田 勝造	入選
43	平等院阿弥陀如来像	尾上 かおり	入選
44	黒猫	尾上 かおり	入選
45	交差点	安本 恵子	入選
46	花菖蒲	由本 正文	入選
47	NO MORE	長澤 静子	入選
48	蓮池	藤本 徳子	入選
49	更年期	高松 登美枝	入選
50	秋の東川	蔵田 省三	入選
51	デンドロビューム	門出 奈津子	入選
52	バラの香り	門出 奈津子	入選
53	赤い自転車の少女	大下 ゆり子	入選

No.	タイトル	氏名	賞
54	時よ止まれ	蔵重 多恵子	入選
55	幸福が飛んでくる花	蔵重 多恵子	入選
56	春っこ・秋っこ	細山田 洋子	入選
57	曼珠沙華	高橋 敬子	入選
58	小さな秋	吉村 佑一	入選
59	象鼻ヶ岬と御手洗湾	吉村 佑一	入選
60	こどもの情景 I -Run-	松浦 清子	入選
61	倉敷	松田 真知子	入選
62	新緑の北アルプス	若林 奉之	入選
63	S夫人	三宅 恵子	入選
64	うまく踊れるかな	河村 祥子	入選
65	ギターを弾く男	琴山 素行	入選
66	山里	琴山 素行	入選
67	雪原の微笑み	山本 喜久美	入選
68	朝霧	植村 侃司	入選
69	私のお気に入り	小西 美佐江	入選
70	夏は来ぬ	竹中 和之	入選
71	S L 山口号	長藤 則男	入選
72	秋桜の詩	山縣 道春	入選
73	春風のハーモニー	神田 千代子	入選
74	關羽讀書	守政 恭輝	入選
75	桃太郎の鬼ヶ島	守政 恭輝	入選
76	SUMMER	橋野 一枝	入選
77	感動の刻	橋野 一枝	入選
78	通り (徳山)	福谷 浩志	入選
79	はまゆうに誘われて	福谷 佳子	入選
80	あずみ3才	福谷 佳子	入選
81	2回目の夏	田辺 豊和	入選
82	露が降りた朝	田辺 豊和	入選
83	カンケイ	三浦 朋子	入選
84	海辺の路地裏	井生 祥吾	入選
85	田舎地蔵	清水 ミヨ子	入選
86	福岡場所	後藤 武司	入選
87	突然・氷雨!	伊藤 聖士	入選
88	感動の楽園	永井 薫	入選
89	たより	松田 マツエ	入選
90	秋彩・小豆島	戸村 佳子	入選
91	光と影ひとすじの光	伊藤 加奈子	入選
92	大道理の舞	デイサービスエリー	入選
93	ひまわり	野村 ヨシ子	入選
94	百合と向日葵	宮本 千鶴子	入選
95	朝顔	竹下 宏治	入選
96	山口の提灯祭り	舞田 智	入選
97	龍蔵寺 鼓の滝	舞田 智	入選
98	ぞうさんのうた Milinda & Namalee	井上 まいこ	入選
99	姉妹・来し方	津山 義秀	入選
100	秋	須郷 勇夫	入選
101	クリスマスローズ	藤井 剛	入選
102	春を独り占め	米本 豊弘	入選
103	惜春	米本 豊弘	入選
104	韓国にて	河村 敏江	入選
105	玉葱	刀根 睦代	入選
106	どんな人でも受け入れてあげるよ	森脇 章子	入選
107	芳純	木村 直子	入選

No.	タイトル	氏名	賞
108	ファイティングポーズ？	小田 妙美恵	入選
109	abnormal world	山田 苑佳	入選
110	そして誰もいなくなった	石川 眞子	入選
111	はじまり	徳原 貴美子	入選
112	さくら	藤本 怜子	入選

立体 出品数38 (市美展大賞1・市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞7・入選13)

No.	タイトル	氏名	賞
1	分裂	楊井 朋子	市美展大賞
2	晩秋Ⅱ	石光 順一	市美展準大賞
3	太古から未来への躍進	西尾 司	市美展賞
4	隠れ線模様氷裂柚子肌壺	藤井 輝昭	市美展賞
5	天空遙か	鍛冶原 武	市美展賞
6	満	石光 順一	市美展賞
7	布目市松文鉢	山根 公子	市美展賞
8	晩照のジオパーク	小川 操	奨励賞
9	落雷・破壊	室本 益美	奨励賞
10	粉引和み文花器	角屋敷 公子	奨励賞
11	墨流し模様変形壺	藤井 輝昭	奨励賞
12	らん	國澤 啓	奨励賞
13	櫛目花器	土田 柁江	奨励賞
14	十一面観音立像	林 敏廣	奨励賞
15	創造のニジマス	中村 達雄	入選
16	創造の魚	中村 達雄	入選
17	花器 (私のモンシロチョウ)	角本 福美	入選
18	青磁釉彫文壺	角屋敷 公子	入選
19	泰衡の蓮	渡邊 修	入選
20	一本の手拭い	渡邊 修	入選
21	樹上の狩人	川中 建三	入選
22	花瓶	蔵田 省三	入選
23	盗賊と剣	中村 知明	入選
24	富嶽	福田 安志	入選
25	振	寺田 晃	入選
26	象嵌桜文花器	手嶋 芳子	入選
27	周南秋の陣	小林 和子	入選

書 出品数44 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞8・入選21)

No.	タイトル	氏名	賞
1	春雨	河村 定子	市美展準大賞
2	啄木のうた	山本 伸	市美展賞
3	松陰と久子の句	京條 富子	市美展賞
4	俳句	樽本 充弘	市美展賞
5	流星	藤井 宗男	市美展賞
6	郭鉦詩	江浪 由恵	市美展賞
7	無限	長谷川 淑江	奨励賞
8	西行のうた	水野 千鶴	奨励賞
9	鯉のぼり	片岡 ヒサ江	奨励賞
10	ゆふされば	官田 久子	奨励賞
11	秋はゆふぐれ…	関口 正美	奨励賞
12	継色紙	市川 チヅ子	奨励賞

No.	タイトル	氏名	賞
13	謝眺詩	田畑 美代子	奨励賞
14	常建詩	河本 明子	奨励賞
15	風従虎	田中 寿代	入選
16	瑯邪臺刻石・篆刻	江藤 マサ子他15人	入選
17	風羅坊の雀	前田 富子	入選
18	口笛ならして…	貞久 俊子	入選
19	松陰の言葉	吉本 美和子	入選
20	明けぬれば…	手嶋 孝子	入選
21	蕪村の句	山本 久美子	入選
22	よしの山	高橋 郁子	入選
23	贈呉均	北栄 孝子	入選
24	鄭羲下碑	柴田 具子	入選
25	陶淵明詩	飯田 邦子	入選
26	凌霄花	中田 和恵	入選
27	唐詩一首	管田 志乃芙	入選
28	和為貴	小林 純子	入選
29	阮籍詩	八塚 智子	入選
30	盧琦詩	杉本 晴美	入選
31	北宅秘園	森脇 萬雄	入選
32	雲の散歩	石田 一義	入選
33	木簡臨書	岩本 利彦	入選
34	蒼鷺	兼重 博子	入選
35	龍と辰	片山 みゆき	入選

写真 出品数127 (市美展準大賞1・市美展賞5・奨励賞25・入選68)			
No.	タイトル	氏名	賞
1	鎮魂の夏	内山 和則	市美展準大賞
2	ニアミス	宮崎 紀与二	市美展賞
3	何見てんのよお～	松田 文夫	市美展賞
4	水彩	新井 正義	市美展賞
5	シラサギのダンス	西田 あや子	市美展賞
6	石鎚山朝景	溝口 智司	市美展賞
7	アーケード	河村 志津代	奨励賞
8	共存・共栄	松田 文夫	奨励賞
9	周南コンビナート	平田 武政	奨励賞
10	乙女巡礼	兼重 要	奨励賞
11	沫	立野 智	奨励賞
12	競演	立野 昌子	奨励賞
13	盛夏の祭	吉光 佑二	奨励賞
14	わが家のお客	出口 幸男	奨励賞
15	なかよし	出口 幸男	奨励賞
16	激走	藤井 孝子	奨励賞
17	見せませ、表と裏	河村 毅麿	奨励賞
18	イッタダキマス	岩本 武夫	奨励賞
19	彼岸花火	大野 伸夫	奨励賞
20	百日紅燃ゆ	片山 一美	奨励賞
21	御田道祭 (笠戸)	町田 敏子	奨励賞
22	夕闇に映える	藤本 武昭	奨励賞
23	桜ロマン	藤本 武昭	奨励賞
24	満月の秋桜	浜田 心仁	奨励賞
25	木の貌	尾崎 万寿美	奨励賞
26	周防柱松	小堀 弘	奨励賞

No.	タイトル	氏名	賞
27	山焼きを終えた台地	東島 晋	奨励賞
28	山里の楽園	山本 由里子	奨励賞
29	清爽	中村 正哉	奨励賞
30	運河に広がるアンブレラ	土本 崇	奨励賞
31	静寂の時	藤波 恭一	奨励賞
32	車窓	吉原 順子	入選
33	里の妖精	吉原 順子	入選
34	船が港に着いた日	河村 志津代	入選
35	鹿野の秋	檜野皮 毅	入選
36	サッカー	生島 鈴枝	入選
37	夕景	平田 武政	入選
38	静閑	兼重 要	入選
39	小さな手つながる	飯田 友一	入選
40	春が来た!	吉光 佑二	入選
41	雨ごい神事	山田 正明	入選
42	コンビナートの夕景	手島 信之	入選
43	棚田の春	手島 信之	入選
44	日暮れ	大木 洋子	入選
45	まぼろし	大木 洋子	入選
46	焚き火	山田 英敏	入選
47	里の店	永尾 博美	入選
48	S L	永尾 博美	入選
49	街の“とり友”	村中 良一	入選
50	訓示を行う	河村 毅麿	入選
51	初雪の朝	森藤 茂雄	入選
52	わーい、春が来た	森藤 茂雄	入選
53	秋の池	手嶋 文雄	入選
54	初冬の雪	友森 久子	入選
55	夕焼	友森 久子	入選
56	湖底の古里 (菅野ダム)	町田 弘	入選
57	のぞき見	柳 信義	入選
58	楽しいひと時	柳 美智子	入選
59	秋	柳 美智子	入選
60	花便り	町田 敏子	入選
61	夕映えの天津島	浜田 心仁	入選
62	父と子	大田 美和子	入選
63	夕暮どき	大田 美和子	入選
64	ナイス フェイス	久原 靖史	入選
65	気迫	久原 靖史	入選
66	甦った大天守 白鷺城	小堀 弘	入選
67	草焼き	東島 晋	入選
68	花咲く17の春	平山 佳世子	入選
69	JET STREAM	飯吉 淳平	入選
70	夜間飛行	飯吉 淳平	入選
71	北長門小景その2	長岡 信正	入選
72	The snowy New Year	磯村 智彦	入選
73	飛翔	西本 勝雄	入選
74	お食事中…。	桑田 昭二	入選
75	周南イルミネーション“冬の星座”	桑田 昭二	入選
76	神様の足跡	中村 正哉	入選
77	プリマ・バレリーナ	頓宮 弘志	入選
78	錦川の清流に舞う	塚崎 日出夫	入選
79	錦繡 獅子吼の庭	大隅 輝芳	入選
80	早春の海に遊ぶ	大隅 輝芳	入選

No.	タイトル	氏名	賞
81	残映	木村 直美	入選
82	黄昏の月	木村 直美	入選
83	思いを込めて	浅原 透	入選
84	勝利の瞬間	浅原 透	入選
85	蛍-予測不能-「自宅前」	吉田 和夫	入選
86	落暉	浜田 美智江	入選
87	glow effect	浜田 美智江	入選
88	J U M P !	中村 啓太郎	入選
89	生きる	弘中 秀夫	入選
90	親愛	中野 由香里	入選
91	水害の爪痕と大豊作	山上 達也	入選
92	川に泳ぐ	蔵澄 安野	入選
93	しだれ桜の下で	後藤田 稔	入選
94	つぶらな瞳	西田 あや子	入選
95	来年も逢えますように・・・	秋本 ナオミ	入選
96	黄色い波に囲まれて	秋本 ナオミ	入選
97	懸け橋	藤波 恭一	入選
98	Red carpet	橋本 聡	入選
99	星空の下で	橋本 聡	入選

《全体総括》

今年はじめて審査に加わることとなった。これまでの周南市美展の状況について、なにもわからないまま平面の審査に臨むこととなったが、かなり多様な画風が幅広く出品されていて、ヴァリエティーに富んだ作品内容というのが第一印象であった。また入賞作品は、いずれも個別の特色をもったユニークなものが選ばれたと思う。

平面準大賞については別に書くとして、それぞれの部門の最も優秀な作品についてコメントすれば、大賞受賞の立体―「分裂」は、白く浮遊する存在感の希薄な繭状の物体のなかに、増殖するかのように蠢く細胞分裂のような形態を釉薬で浮かびあがらせた作品である。近年の生命科学のめざましい発展と、その一方にある、なにか得体のしれない不安や危うさを感じ取れる作品である。

準大賞受賞の書―「春雨」は、軽やかで速度をもった筆が生き、なにかしら弾むようなリズム感も感じられる書風である。ベテランなりの安定感を示しながらも、実に若々しい感覚にあふれた作品である。準大賞受賞の写真―「鎮魂の夏」は、原爆ドームと精霊流しという一対の作品となっていて、深い闇と、色とりどりの光の交錯のなかに、静かな祈りの光景を写しとっている。

今回は受賞上位に女性が多くなったが、それらがいずれも軽やかで感覚的な作風であったことが印象的であった。また、20代などの若い世代の出品がもう少し増えると、さらに多彩な展覧会になるのではないかと感じた次第である。

(菊屋 吉生)

《各部門総括》

平面の部

全体的に、じっくりと描き込まれた具象作品が多いように感じました。テーマに沿って技法や構成等もよく研究されており、思いの込められた作品を前にすると、選外とすることがためらわれ、予定時間を超過しての審査となりました。

市美展準大賞「メモからの脱出」は、多くの具象作品とは異なる抽象的傾向の作品です。日常生活において大切な役割を担いながらも用が済めば簡単に捨てられてしまう「メモ」。その儚く小さな記録の断片に、現代に生きる私たちの浮遊感を重ね合わせてしまいます。作者の「今ここから」の「脱出」が今後どうなるのか楽しみです。

シュールな空間にどきっとさせられる「老木」、忙しい都会生活に疲れた私たちを癒してくれる「四熊の棚田」、きな臭さのおう今だからこそ描かずにはおれなかったであろう「戦後70年 ～僕らの未来は…～」、自然から遠のいている現代人にも気軽に入って行けそうな「森の個展」、猿の挙動がますます騒々しくなってきた「SPACE V」、パステルと余白を優雅に操る「光の方へ」、観る者を異国へ誘う「刻―古都バクタプルー（ネパール）」、手の込んだデザインと布の持つ魅力を生かした「流れ」など、今回もたくさんさんの刺激を受け、勉強になった審査会でした。

(小田 善郎)

立体の部

昨年に引き続き、立体部門の審査を担当させていただきました。出品数は昨年を上回る38点の応募があり、そのほとんどを今年も陶芸作品が占めていました。それ以外は木材を素材とした立体造形の作品や仏像彫刻が数点。また毎年出品されている廃材を使った立体造形の作品などがありました。審査方法としては、まず選外の作品を選んだ後、入選作品の中から各賞を選出していきました。選外となった作品は技術的な未熟さもさることながら、やはり表現としての主張が弱いものが多かったように思います。是非本展を見られ今後の制作の参考とされることを望みます。

市美展大賞に輝いた「分裂」は立体部門上位6点の入賞候補の中では、表現としての新しさやオリジナリティーの点で秀でていました。また作者等身大の表現と感じさせるところも大変好感がもてました。この賞を励みに今後も自己の表現、やきものの可能性を追求して行って下さい。期待しております。

最後に2年間の審査に携わり常連と思われる方の作品を数多く見ました。新しいものを生み出すには今ある物を壊す勇気も必要かと考えます。現状の作風やスタイルに甘んじることなく色んなものやことに挑戦してみてください。それが今後の市美展の発展にも繋がると考えます。

(中村 隆文)

書の部

書部門の出品点数は、去年が33、今年は44とわずかな躍進が見られました。出品された作品は漢字、仮名、近代詩文、調和体、篆刻（一点）とどの作品を見ても個性が発揮されたように見受けられますが、ほとんどが師の手本の模倣作品が多い様でした。真に残念なことと思います。

書の基本概念は、まず古典の臨書（形臨・意臨・背臨）から始まり、自己の性情の発露へと進むのが常道ではないでしょうか。現代多忙の中でその様なことは出来ないと思うのは真の書義ではないように思います。十人十色の作品に個のすばらしさは感じられるものの、鑑賞者の心を打つ作品はそう簡単に出来るものではないと感じます。皆さんは、多くの作品を作製、鑑賞し、自己に合った作品の雰囲気を作し、現代に合った作品を努力と忍耐をもって作り上げることが肝要ではないでしょうか。

さらによい作品を期待します。

(岡 篷舟)

写真の部

出品作品を拝見して、まず感じたのは、どの作品も丁寧に仕上げられていて、日頃から熱心に取り組んでおられる熱意です。確かに写真には記録するという際立った機能があるのですが、例えば、旅行に行って同じ時間に同じ場所で同じ風景を写しても、ほとんど同じ写真は無いほど人それぞれに違うのです。写真で感じたことを伝えるということでは、単に対象の色や美や形を写すだけでは作者の意図や思いがなかなか伝わらない場合が多く、まず立ち止まって、どうしたら他の人のその感動を伝えられるか、またその被写体を通して何を表現したいのか、工夫をする必要があります。

鉄道写真を写している人は上達が早いとよく言われます。多くの良い写真を見て研究し、考えた末に遠くへ出かけ、時間をかけて撮影ポイントを探し、同じ鉄道の好きな写真仲間と交流し、何よりも本人が電車が大好きで楽しんでいるので、いつの間にか上手になるのです。

今回の選考にあたって、やはり意図がはっきりと感じられないものは作品として弱くなってしまいがちでしたが、もう一工夫すれば良くなる作品は多かったと思います。

来年を期待しております。

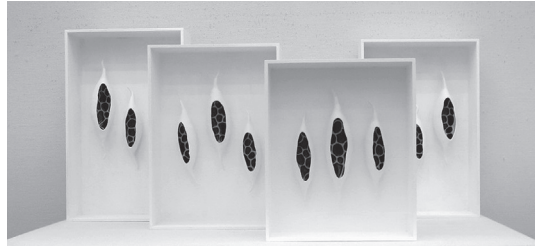
(竹重 満憲)

《作品講評》

市美展大賞 立体
「分裂」

楊井 朋子

白いボックスの中に白いミノムシ形の磁器のオブジェが3個浮かんでいる。これが4箱並べられて一つの組作品。最初はフワッとしてとりとめのない印象だが、徐々にその独特の魅力を放ち始める。オブジェはその形状や色から、



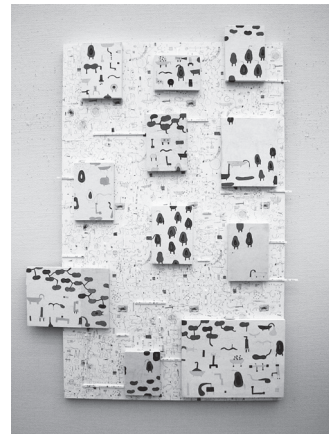
また前面に開口部を作り内部を見せることで薄い被膜に包まれた構造を持つ有機的な生命体としてのイメージを明確にする。内側には何やら細胞の集まりを思わせる模様まで。呉須の濃い青に透明釉が施されて光沢を放つが、磁器の素地そのままのマットで白い表面がそれを包み込む。このコントラストも効果的だが、通常表面を加飾する陶磁作品の内と外を逆転させた手法もユニークだ。そして最後には全体から醸し出される柔らかく軽い浮遊感が不思議な魅力で見る者を包み込んでしまう。浮遊しながらも分裂を繰り返し自由に遅く生きる原始的な生命体は複雑な現代社会に生きる私たちに、生きることの根源を伝えようとしているようだ。技法・表現内容ともにユニークで意欲的で現代的な秀作といえる。

(高木 茂登)

市美展準大賞 平面
「メモからの脱出」 三浦 朋子

大きく白い画面に、現代のデジタル社会を象徴するかのような奇妙なイメージがばら撒かれた作品である。一見モダンでおしゃれな画面に見えるが、よく見るとどこか異様な形や物体へのこだわりがあふれている。それぞれが生き物のような、機械のような、なにか特定の形象を示すものではないのだろうが、この細かいペンによる、とぼけた殴り描きのような形象の混在こそが、作者が漠然と思い描く現在の姿なのだろう。

「メモからの脱出」というタイトルも、われわれのメモや記憶などに表しえない物への憧憬も強く感じられる。また、これら落書きのようなイメージの氾濫は、文字や数字で概念化された世界への抵抗の証ともとらえることはできないだろうか。焦点の定まらない浮遊感も印象的だ。



(菊屋 吉生)

市美展準大賞 立体

「晩秋Ⅱ」

石光 順一

非常に堅実で好感のもてる作品である。継続した作陶の中での試行錯誤、新しい物を作りだそうとする探究心や情熱が作品を通して伝わってきました。日頃より陶技に関して色々と研究されているのでしょう。

本作品の最大の魅力は釉調と形（フォルム）である。器の形はよく人間のボディー、釉葉は着物に例えられます。そしてその二つの要素が調和して、初めて陶芸作品として成立するものであると考えます。微妙に斜めに傾かせた胴に



張りのある形。作品タイトルの「晩秋Ⅱ」をイメージさせる艶消し茶褐色の渋い釉調。ところどころにみられる細かい釉の結晶。そして胴の張りの部分に施された釘彫り装飾を取り囲む美しい釉葉の条痕は、たっぷりと張った量感豊かなフォルムに動感のある美的効果となって作品をより魅力的なものにしています。昨年の奨励賞から今年市美展準大賞の評価を得られたこと、これを一つの励みとして、今後も作陶を続けて下さい。

(中村 隆文)

市美展準大賞 書

「春雨」

河村 定子

万葉「春のうた二首」を横形式で大字かなにまとめた作である。漢字、かな、調和体合わせて44点の中で、ひととき目立った存在である。



それは、古典（香紙切）をしっかりと自分のものとし、ゆったりと大きな動きでまとめて、文字造形の面白さは勿論のこと、鍛えぬかれた線が切れ味よく紙に定着している。

構成的には平凡な並列形式であるが、一行がゆらめきながらリズムよく流れ、しかも隣の行との響き合いもよく計算されている。

又、漢字が「春雨萌柳梅花散竹鶯」と九文字あるが、かなとうまく調和させて効果的である。要は作品づくりの心得をしっかりと踏まえている。以上のような作品であり、市美展準大賞にふさわしい秀作であり推薦されたのである。大いに精進して欲しい。

(村上 俄山)

市美展準大賞 写真

「鎮魂の夏」

内山 和則

周南は写真の街といわれ、写真人口が多いといわれるが、今回は127点と多くの応募があった。見応えのある作品に審査が難航するが、今回の周南市美展準大賞受賞作品の「鎮魂の夏」は、言い得て妙の題名である。最近ではデジタルの時代となるが、安易に撮影されたものでなく、計算通りの写真だと思う。原爆ドームのライトアップの写真はよく見るが、この写真は構図が絶妙で、暗部のレンガに当たるライトアップのディテールが見事である。もう1枚は精霊流しだと思うが、上部の色彩の違いを小さく精霊を大きく表現した事は成功である。原爆ドームと精霊流しの組合せで表現された事が成功だと思う。今年は終戦70年を意識しての撮影なのか不明だが、広島での悲惨な出来事を忘れないでのメッセージの写真かもしれない。



(栗林 和彦)

周南市美術展運営委員会 委員

- 委員長 西崎 博史 (周南文化協会 会長)
河村 純一郎 (洋画家)
澤田 小恵子 (周南市連合婦人会 会長、徳山女性団体連絡協議会 会長)
原田 洋子 (人権擁護委員)
藤本 満俊 (陶芸家、周南文化協会陶芸連盟 会長)
有田 順一 (周南市美術博物館 館長)

